

私の本棚

▶「ロボットと人間 人とは何か」(石黒浩著、岩波書店)

著者は自身や有名人にそっくりのロボット(アンドロイド)を開発し、研究対象とするロボット工学者だが、本書のテーマは、メカニクスでも人工知能でもなく「人とは何か」という根源的な問いだ。人間に似たロボットを動かし、人間との違いを観察し、仮説を検証し、人間を

理解するという方法をとる。

例えば、これまでのような音声認識と画像認識を別の分野として研究するのではなく、複数の感覚を組み合わせて外部を認識する、マルチモーダルな研究を進めている。これは「人間が常に2つ以上の感覚を組み合わせて、世界の出来事を実感をもって認識している」という洞察に基づくものだ。

今後活用が期待される、ロボットと人との対話(語学教育、高齢者対応、レストランやホテルでの接客など)についても実験を重ね、対話継続の驚きの手法を開発している。

さらにロボットやアンドロイドに関わる基本的な問題として、自律性、心、存在感、進化、生命にまで思考を巡らせていく。義手や義足や人工臓器等の発達により人間が肉体から解放されれば、人間は未来においてさらに多様性を広げる可能性があるとの指摘は刺激的だ。

